

# TACにかかわる漁獲統計資料の収集と解析

(漁獲管理情報処理システム整備事業・漁獲管理計画策定事業)

向井哲也・若林英人

## 1. 研究目的

国連海洋法条約に基づく、排他的経済水域の設定およびこれに伴う同水域内における漁獲可能量(TAC)の決定と適切な資源管理を推進するため、これに要する基礎的資料の整備を図ることが急務とされている。そこで、本事業では、島根県内の主要漁協と水産試験場をオンラインで結び、漁獲情報、水揚げ情報等に関するコンピューターネットワークを構築し、確かな漁獲量の管理を推進すること目的として「漁獲管理情報処理システム」の開発、整備を行う。

## 2. システムの概要

県下主要15漁協(おき西郷、浦郷、海士町、美保関、島根町、御津、恵曇、平田市、大社町、大田市、和江、五十猛、仁摩町、はまだ、益田市)からの漁獲データを毎月処理し、県水産課・水産庁に送信している。送られた漁獲データは水産庁でTAC制度における漁獲量データとして使用されTACによる資源管理に必須なものとなっている。また、収集した漁獲データは水産試験場で解析され、漁況分析・資源解析などに使用されている。水産試験場で集計したデータは行政LANを通じて関係機関にも提供され、各種事業のための基礎資料となっている。

## 3. 問題点

- ・漁協から水試にデータを送信するのエラーにより、データの消失事故が多く生じており、その対策が必要である。
- ・今後漁協合併に伴い、システム的大幅な見直しが必要と考えられる。

